

入 選

黄金色の稲穂のために

茨城大学教育学部附属中学校

一年 田 村 美 桜

私の家の前は、一面田んぼである。日頃から慣れた風景なので気にしたこともなかったが、ニュースや新聞で米の価格が高騰し、米がスーパーなどの店頭からなくなり、手に入れることが難しくなっていると感じた。改めて家の前の田んぼを見て、こんなに広大な田んぼがあり、そこで米を作り、収穫しているのになぜ米が不足しているのだろうと思った。そして、毎日当たり前のように食べている米についてもっと知りたくなった。

米は私たちの主食であり、食事に欠かせないものである。おいしい米を作るには水が重要である。家の前の田んぼでは近くの川から水を汲み上げ、用水路を通り、田んぼまで水を運んでいる。私の祖父

は高齢で米作りをやめてしまっていたが、当時のことを聞いてみると、やはり、家の裏にある川から発動機を使って、水を汲み上げ、毎日朝と夕に田んぼに水を入れていたそうだ。水もただ入れればよいというものではなく、育つ過程に合わせて水の量の調節が必要でそれによっても米の味が変わってしまうと言っていた。祖父の話を聞いて、米作りの大変さと水の重要さを知ったと同時にその水が不足したり、とても汚れていたら大変だと考えた。

私は、日本には川が多いし、梅雨や台風の時期もあるため、水は豊富にあるのだろうと思っていた。しかし、最近の異常気象により雨の降り方が変わり、雨が少ない年があったり、雨が降らない日数が増えたりして安定的な水の利用が難しくなっているようだ。しかも、日本は一人当たりの水の使用量が世界で二番目に多いということに驚いた。都市部の人口増加や産業の集中も水の消費量を増やしているのだが、私がまず自分で出来ることは何だろうかと考えてみた。身近なことですぐに実行できるとしたら、安易だが、やはり節水を意識するということだろう

か。朝起きて顔を洗ったり、歯磨きをしたりする時に水を流しっぱなしにするのではなく、こまめに止める。入浴時に必要以上の洗剤を使わないなど意識すれば実践できることは多くあることに気付いた。母にも普段している節水対策はあるか聞いてみたところ、お風呂の残り湯で洗濯をしていたり、水道の元栓を少し閉めて必要以上の水が出ないようにしたりして工夫しているそうだ。家族で水の大切さについて話し合うことがあまりなかったので、このような機会を持ててよかった。

次に水の汚染について考えた。日本では水道の蛇口をひねれば、きれいな水が出てそのまま飲むことができるので、どの国でもそうなのだろうと思っていた。ところが、日本以外では十ヶ国ほどしか水をそのまま飲むことが出来ないそうだ。水を川からくみ、汚れや細菌を取り除いてきれいな水にするには大きな資金と大きな施設が必要なため、発展途上国など水道施設にお金をかけられない国では水道自体があまり使われていないのだ。私が毎日使っている水は当たり前のもではなく、飲めるようにきれ

いにしてくれているからだと知った。きれいにするから川の水は汚くてもよいということではなく、きれいにする作業が最小限で済むように入浴時に使う洗剤を適量にしたり、食器を洗う前に油污れを紙で拭き取ったりして努力することが必要だと思った。

私の家の前の広大な田んぼは、ちょうど田植えを終えたばかりだ。その田んぼには、水が張られ、青々とした苗が見える。川から汲み上げたその水が少しでもきれいで不足することのないよう日常生活で出来ることを実行しながら、苗が育ち、稲穂が実り、黄金色になって米として収穫されるまでを見守りたいと思う。